

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 91 号

2018 (平成30) 年11月17日 (土)

ざぜんざんまい ろんござんまい
坐禅三昧・論語三昧

しょう ちゅうがくせい かんどう じゅぎょう てんかい
小・中学生が感動の授業を展開

てらこや ろんござんまい しゅさい にった おさむ
寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

ことし ねんめ わか ざぜんざんまいなら ろんご ざんまい せんげつじっし もよお じゅくせい ほごしゃ みな
今年で3年目を迎えた坐禅三昧並びに論語三昧が先月実施されました。この催しは、塾生・保護者の皆
さんが形にとらわれないで大いに熱中して楽しむという趣旨で始まったものです。

ざぜんざんまい ほくだいじ おおなみそうりょ しどう ま ざぜん みつ たいせつ ころがま ちようしん ちようそく
坐禅三昧では、北大寺の大波僧侶の指導により先ず坐禅の三つの大切な心構え、つまり調身・調息・
調心について話がありました。調身とは姿勢を整えること、調息は呼吸を落ち着けること、そして調
心で心を静寂に保つ。そうすることによって心身が開放され集中力も養われる効果があるのだと、
実演を交えながらわかりやすく説明してくれました。短い時間でしたが、次回をもっと色々聞きたいという
希望を抱かせてくれました。

つぎ ろんござんまい にん じゅくせい ろんご じゅぎょう おこな わたし い か き ほうこく
次に論語三昧は、4人の塾生に論語の授業を行ってもらいましたが、私のコメントを以下に記して報告
にかえたいと思います。

さいしょ ほっかてどうきょういくだいがくふぞくさつぽろしょうがっこう ねんせい わたなべはるたろうくん えいはいこうだい だい しょう じゅぎょう
最初は北海道教育大学付属札幌小学校3年生の渡邊春太郎君による「衛霊公第十五・第42章」の授業
でした。この章句は昨年の8月の論語塾で取り上げましたが、よもや小3の春太郎君が結構長い、しかも
難しいこの章句を選ぶとは思いませんでした。春太郎君は「目が見えない人や、耳が聞こえない人を助け
られるようになりたいと思っただからこの章句を選びました。」と話してくれました。思いやりの心を持った
優しさが滲み出た言葉に胸打たれます。これからも仁の心を持ち続けてほしいと思います。



ばんめ ねんれんぞく さつぽろしりつこうさいしょうがっこう ねんせい みつだらの すけくん じゅつじだい だい しょう じゅぎょう
二番目は、2年連続での札幌市立幌西小学校4年生の光田虎ノ介君による「述而第七・第6章」の授業で
した。虎ノ介君の授業で先生が感激したのは、サッカーを通して学んだことが勉強にもあてはまるので、
それを活かして努力していくことが大切なのだと考えているところです。スポーツマンたる虎ノ介君の目
の付け所には感心しました。これからも今まで以上に積極的に論語に取り組み、文武両道で頑張っ
てほしいと思います。



 * 三番目は、札幌市立発寒東小学校6年生の藤島果歩さんによる「為政第二・第4章」の授業でした。
 * 人生の指針ともいわれているこの難しい章句をよくぞ取り上げてくれました。果歩さんはこう締めくく
 * っています。「これから大人になっていく過程で、この章句に出て来る様々な年齢になったとき、その時の
 * 自分と照らし合わせて自分の人生に役立てていきたいと思います」と。とても小学校6年生とは思えない、
 * 本質を突いた考え方です。論語に対して忍耐強く、一途に打ち込もうとする果歩さんの思いがとても深く
 * 感じられました。これからも努力を重ねてください。



 * 論語三昧の最後は、千歳市立富丘中学校2年生の街道夢さんによる「雍也第六・第27章」の授業でした。
 * 最初選んだ章句が他の人と重なったので急遽変更することになってこの章句を選択した訳ですが、短期間
 * で集中してやり切ったところはさすが中学生です。

 * 夢さんは、「私のひとり言」で「君子として求められるのは、強さだけではなく、思いやりや相手に対す
 * る礼儀、道具を大切に扱うこと、ルールを守れること」と言い切っていますが、日本武道である剣道を通
 * して、仁・徳・礼に日々精進を重ねている姿を垣間見た思いです。


